

在宅医療支援だより

日増しに暖かさを感じられるようになりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

この通信では、在宅医療支援病棟で行われている看護や地域に向けての在宅支援に関わる活動を知っていただくため情報をお届けしたいと思います。



■家へ帰るまでには ～第2回 在宅支援病棟の登録患者になるには？～

在宅医療支援病棟に入院してから家に帰るまでにどのような支援があるかを「家へ帰るまでには」シリーズでお伝えしています。第1回目に続いて、第2回目は在宅支援病棟に入院するには？というお話です。

◎登録患者になるには？

まず当センターの登録患者になることが必要です。登録患者とは、かかりつけ医の訪問診療を受けていて、今後も在宅療養を希望されている患者様です。登録患者になるためには、まずかかりつけ医から患者様・ご家族に当センター当病棟の理念及び役割を説明して頂きます。その上で十分ご理解・納得いただき、患者様・ご家族から口頭でご了承いただいた場合、かかりつけ医を通して、登録患者となります。入院が必要と判断されましたら、かかりつけ医から当センターへ連絡していただき、病棟と調整し入院が決定されます。

在宅医療支援病棟では、介護や医療処置が必要となった患者様・ご家族への指導、在宅サービスの調整や話し合いを行っています。



■他の病院と交流しています

平成26年12月に東京医療センターにおいて第6回地域包括ケア交流会が開催されました。東京医療センター、長野県佐久総合病院、三重県立一志病院、当院の医師、看護師、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーなど40人程が集まり、「独居高齢者」をテーマにそれぞれの病院での

取り組みやケーススタディー、グループワークを通して意見交換を行いました。独居高齢者が増加する中で、どのように支えていくか、私達ができることは何かを勉強する良い機会となりました。

三重県立一志病院から看護師3名が退院支援についての研修にきました。介護指導の実際、退院前訪問、退院前カンファレンスに参加され、退院までの流れを見学されました。



■リハビリ(作業療法)からのお話

疾病や外傷等により身体機能または精神機能に障害の有る方を対象に、様々な作業活動を用いて対象者の基本能力の改善や、生活に必要な日常生活動作能力の改善を図ります。家屋環境の設備や自助具などの福祉用具を整えることで生活障害の軽減を図り、本人がより満足出来る生活の再構築を目指し様々な訓練・指導・援助を行います。自助具について簡単にご紹介します。

自助具の具体的なものとしてはピンセット、箸、グリップを太くしたり角度調整ができるスプーンやフォーク、コップホルダー、すくいやすいお皿、ボタンエイド、靴下補助具など多種多様なものがあります。



■新人看護師よりひとこと



はじめまして。今年度4月より看護師として働き始めました、廣津留です。はじめはわからないことばかりで、患者さんやご家族に話をうかがうことに身構えてしまい上手くお話できませんでした。しかし、今では笑顔でお話することができるようになりました。在宅でどのようなことに困っているのかなど、患者さんやご家族からの思いが聞ける看護師になっていきたいです。

発行元：国立長寿医療研究センター
在宅医療支援病棟(南3階)
問い合わせ：0562-46-2311

